田辺湾周辺海域の腔腸動物
花水母目（刺胞動物門，ヒドロ虫綱）

久保田　信

Faunal list of Coelenterata collected from Tanabe Bay and its vicinities.
Order Anthomedusae (Phylum Cnidaria, Class Hydrozoa)

SHIN KUBOTA

和歌山県白浜町周辺海域は，複雑な地形と環境，加えて黒潮の分枝流の影響により，外洋性および内湾性の海洋生物が豊富である。この海域の無脊椎動物相の解明については，瀬戸臨海実験所の所員や数多くの研究者により手を染められてきているが，動物群によってはまだ未知のものも多い(時岡，1982)。刺胞動物門と有櫛動物門をあわせたいわゆる腔腸動物については，これまでに内田享，内海富士夫，駒井卓，時岡隆，西村三郎，山路勇，山田真弓の諸先達に加えて著者による研究がある(参考文献参照)。本シリーズでは，この海域で，これまでに記録された腔腸動物を分類群ごとにリストアップし，今後の分類・系統学的研究の基礎的資料とするものである。学名はこのような研究の進展とともに変更されるので，過去に使用された名称との対応がつきづらいことが多い。そこで，本リストでは，邦人がかつて日本の材料で新種あるいは既知種として記載したものの，その後シノニムとなったものを〔　〕中に並記すると同時に，和名があればそれを付したもので，今後はこれらを参考にして頂きたい。

今回のリストでは，ヒドロ虫綱に属する花水母目について，学名のアルファベット順にまとめた。花水母目のクラゲは，口柄に生殖巣を形成する点が一大特徴である。傘の周辺に平衡器をもつことはないが，種によっては傘縁瘤に眼点を備えたり（例：シュズクラゲ；ヤマトサルシアクラゲ；カミクラゲ)，口の付近に触手を有する（例：エダクラゲ；タマクラゲ)。本目のすべての種は必ずポリプ世代をもつ。ポリプは囲皮の発達が悪いのが特徴で，特にヒドロ花を包むヒドロ莢がなく無鞘目 Athecata として取り扱われている。このようなポリプにはクラゲを出さない種も多い（例：カイウミヒドラ；ベニクダウミヒドラ)。しかし，クラゲとポリプが既知であっても，ある海域に両者が同時に生息しているわけでもない。従って，以下のリストでは，ベントスであるポリプとプランクトンであるクラゲの両方の生活段階にわけて記した。

クラゲ

Amphinema rugosum (Mayer, 1900)　ツリアイクラゲ〔*Stomotoca rugosa* Mayer〕
Bougainvillia bitentaculata Uchida, 1925　エダクラゲ
Bougainvilla fulva Agassiz and Mayer, 1899
Cladonema pacificum Naumov, 1955　エダアシクラゲ〔*C. uchidai* Hirai, 1958; *C. radiatum* var. *mayeri* Perkins〕
Cytaeis uchidae Rees, 1962　タマクラゲ〔**C. japonica* Uchida, 1927〕

Dipurena ophigaster Haeckel, 1879　ジュズクラゲ
Ectopleura sacculifera Kramp, 1957
Euphysora bigelowi Maas, 1905　カタアシクラゲ〔*Euphysa bigelowi* (Maas)〕
**Gotoea typica* Uchida, 1927
Halitiara formosa Fewkes, 1882　コエボシクラゲ
Leuckartiara octona (Fleming, 1823)　エボシクラゲ
Nemopsis dofleini Maas, 1909　ドフラインクラゲ〔*Favonia nipponica* Kishinouye, 1910; *Favonia sulcata* Kishinouye, 1910〕
**Pandeopsis ikarii* (Uchida, 1927)〔*Tiarana ikarii* Uchida〕
Podocoryne minima (Trinci, 1903) コツブクラゲ〔*P. simplex* Kramp, 1928〕
Podocoryne sp.
Rathkea octopunctata (M. Sars, 1835)　シミコクラゲ〔*Lizzia shimiko* Kishinouye, 1910; *Rathkea blumenbachii* (Rathke, 1835)〕
**Sarsia nipponica* Uchida, 1927　ヤマトサルシアクラゲ
Spirocodon saltator (Tilesius, 1818)　カミクラゲ〔*S. saltatrix*; *S. brevitentacularis* Okada, 1926〕
Turritopsis nutricula McCraday, 1856　ベニクラゲ
Vannuccia forbesii (Mayer, 1894)〔*Hybocodon forbesii* Mayer〕
Zanclea prolifera Uchida and Sugiura, 1976 スズフリクラゲ
**Zancleopsis gotoi* (Uchida, 1927)　フチコブクラゲ〔*Cnidotiara gotoi* Uchida〕

ポ リ プ

? *Eudendrium* sp.　エダウミヒドラの一種
Halocordyle disticha (Goldfuss, 1820)　ハネウミヒドラ〔*Pennaria cavolinii* Ehrenberg, 1834〕
Hydractinia epichoncha Stechow, 1907　カイウミヒドラ（宿主：シワホラダマシ）
**Hydrichthys pacificus* Miyashita, 1941　サカナヤドリヒドラ（宿主：ニザダイ）
Hydrocoryne miurensis Stechow, 1907　オオタマウミヒドラ
Leuckartiara octona (Fleming, 1823)　エボシクラゲ
Sarsia nipponica Uchida, 1927　ヤマトサルシアクラゲ
Solanderia sp.　オオギウミヒドラ〔*Dendrocoryne* sp.〕
Sphaerocoryne sp.　カイメンウミヒドラの一種（宿主：フツウカイメンの一種）
**Stylactis carcinicola*, Hiro, 1939　カニウミヒドラ（宿主：タカアシガニ）
**Stylactaria piscicola* (Komai, 1932)　ヒメサカナウミヒドラ〔*Stylactis piscicola* Komai〕（宿主：ダルマオコゼ）
Tubularia mesembryanthemum Allman, 1871　ベニクダウミヒドラ
Zanclea sp.　スズフリクラゲの一種

上記のように，田辺湾周辺海域から花水母目のクラゲとして20属22種が，またポリプとして13属13種が記録されている。両者をあわせると，30属33種が記録されていることになる。このうちで米印をつけた8属8種は，瀬戸（白浜）付近が模式産地となってい

る。

以上の田辺湾周辺海域産の花水母目のうちで，クラゲで原記載がなされた種については，それらのポリプは世界のどの場所からもまだ発見されていないものが多い（例：ツリアイクラゲ；*Gotoea typica*）。また，それらがどのような未熟なクラゲとしてポリプから遊離し，どのように成長していくのかも未知である。ポリプのリストに示したように，ある種のポリプは共生種で，特定の宿主上にみられる。このようなポリプではクラゲからポリプを実験室で得るのは困難であり，両者の対応をつけるのは難しい。一方，サカナヤドリヒドラのように，たった1群体のポリプが世界で唯一の記録で(Miyashita, 1941)，クラゲ世代がまったく解明されていない種もある。今後，多角的な研究を行なって生活史を解明する研究が必要である。

参考文献

Hiro, F. 1939. Notes on the animals found on *Macrocheira kaempferi* de Haan. III. Hydroids. Annot. zool. Japon., 18 (3): 167－176.

駒井卓．1929．京都帝国大学理学部附属瀬戸臨海研究所．京都帝国大学理学部瀬戸臨海研究所，21頁，11図．

Komai, T. 1932. On two species of athecate hydroids associated with scorpaenoid fishes. Annot. zool. Japon. 13 (5): 445－459, pls. 26－27.

Komai, T. & J. Ikari 1929. The Seto Marine Biological Laboratory of the Kyoto Imperial University. Its equipment and activities, with remarks on the fauna and flora of the environs. (A revised article). Rec. Oceanogr. Works in Japan, 1 (3): 113－129, pls. 27－35.

Kubota, S. 1988. Taxonomic study on *Hydrocoryne miurensis* (Hydrozoa: Hydrocorynidae) in Japan. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 33 (1/3): 1－18.

久保田信．1988. 和歌山県産ヒドロ虫類．　南紀生物 30 (2): 115－120.

Kubota, S. 1991. Taxonomic notes on polyp and medusa of *Sarsia nipponica* Uchida (Hydrozoa: Corynidae) from the type locality in Japan. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 35 (1/3): 17－23.

Miyashita, Y. 1941. On the occurrence of a new *Hydrichthys* in the Pacific coast of Japan. Annot. zool. Japon., 20 (3): 151－153.

時岡隆．1982.「海の生物」 白浜町誌自然編 白浜の自然 pp. 165－233，白浜町．

Uchida, T. 1927. Studies on Japanese hydromedusae. I. Anthomedusae. J. Fac. Sci., Tokyo Univ., 1: 145－241, pls. 10－11.

山田真弓．1983．田辺湾産ヒドロくらげ類 (I)－故井狩二郎氏のスケッチから－．南紀生物　25 (1): 1－7.

Yamazi, I. 1958. Preliminary check-list of plankton organisms found in Tanabe Bay and its environs. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 7: 111－163.

山路勇．1963. 日本プランクトン図鑑　増補改訂版．保育社，大阪．238 pp.